

公述人 E氏

| 公述意見の要旨   | 市の考え方   |
|---|---|
| <p>① 深沢地区旧国鉄大船工場跡地を含めた再開発は、地元住民としては長年の懸案であった。区画整理事業に賛成であり、着実に事業を推進してもらいたい。</p> <p>今回の計画は大枠としての整備目標、土地利用の方針を決めることであるはずなので、その点も市民に説明したうえで議論を展開してもらいたい。</p> <p>② 地区計画原案にあるようにJR村岡新駅を中心とした村岡地区のまちづくりと連携をはかり、鎌倉第三の拠点をめざした計画を推進してもらいたい。</p> <p>③ 土地利用の方針についても、自然環境への配慮と持続可能な社会への対応を含め、住宅系土地利用の方針、業務系土地利用の方針、商業系土地利用の方針、及び工業系土地利用の方針等を考慮し、徹底して推進してもらいたい。</p> <p>④ 公共施設の土地利用の方針決定には、公園や緑地の環境を考慮して、オープンスペースを含めて開発計画を進めてもらいたい。</p> <p>⑤ 31ヘクタールの遊休地の活用と市庁舎移転や村岡新駅とは関連はあるが、大船工場跡地の有効利用の重要性をもっと認識してもらいたい。</p> <p>⑥ 市庁舎の移転新駅の建設、鎌倉第三の都市拠点の形成を目指して推進することの利点について、もっと丁寧に説明してもらいたい。</p> <p>洪水の危険を過大視する議論もあるが、河川の拡幅や調整池の配置等により、その危険を最低限に回避できることも市民に周知してもらいたい。</p> | <p>① 第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画実施計画に示したスケジュールに沿って、引き続き事業を実施するための手続を進めてまいります。</p> <p>また、深沢地区地区計画は、隣接する藤沢市村岡地区における新駅を中心としたまちづくりと連携を図りながら、土地区画整理事業による面的整備を行い、土地利用転換事業を推進し、住宅と商業・業務機能等を適切に配置した魅力ある拠点的都市空間を形成することを土地利用の方針として定めるものであることを、引き続き都市計画手続の中で説明してまいります。</p> <p>② 深沢の新しいまちづくりは、第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画や鎌倉市都市マスタープラン、深沢地域の新しいまちづくり基本計画など、行政計画に基づいて進めています。</p> <p>こうした行政計画に基づき、隣接する藤沢市村岡地区における新駅を中心としたまちづくりと連携を図りながら、新駅を含めた深沢・村岡両地区一体の土地区画整理事業を進めています。</p> <p>③ 深沢地区地区計画では、隣接する藤沢市村岡地区における新駅を中心としたまちづくりと連携を図りながら、土地区画整理事業による面的整備を行い、土地利用転換事業を推進し、住宅と商業・業務機能等を適切に配置した魅力ある拠点的都市空間を形成することを土地利用の方針としています。</p> <p>こうした方針に基づき、引き続き事業を実施するための手続を進めてまいります。</p> <p>④ 土地区画整理事業の公共施設の配置の方針では、「公園は、施行地区面積の3%以上かつ計画人口1人当たり3㎡以上を確保し、施行地区内に公園を適切に配置する。」としております。</p> <p>また、令和元年度に作成した土地利用計画（案）では、行政施設街区の西側にグラウンドや公園等を設置する予定です。街区内の回遊性及び歩行者の利便性を向上するためのオープンスペースの確保に向けて検討してまいります。</p> <p>⑤ 第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画、都市マスタープランなどの行政計画で示している鎌倉駅周辺、大船駅周辺及び深沢地域国鉄跡地周辺の3拠点でのまちづくりをめざし、引き続き手続を進めてまいります。</p> <p>⑥ 今後も深沢地域整備事業の内容について丁寧な周知に努めます。</p> <p>また、本庁舎の整備事業については、別途、本庁舎整備事業のなかで、丁寧な説明に努めます。</p> |

※ C氏からは、「村岡・深沢地区土地区画整理事業」及び「3・4・5号深沢村岡線」、D氏からは、「村岡・深沢地区土地区画整理事業」及び「深沢地区地区計画」、F氏からは、「深沢地区地区計画」及び「3・4・5号深沢村岡線」、について公述をいただいておりますが、各案件とも相互に関連する公述内容であるため、各案件に同じ公述要旨及び市の考え方を記載しています。

公述人 F氏

| 公述意見の要旨  | 市の考え方   |
|--|---|
| <p>① 深沢村岡線の決定、腰越大船線の変更に基本的に反対である。</p> <p>② 新駅をつくることと深沢地域の再開発は切り離したらどうか。新駅建設が先にありきというふうに思える。立地条件や人口減少の予測から、将来に向けて利用者が伸びるのか否定的に考えている。<br/>駅間は4～5分で結果的に乗車時間が長くなり、利便性が向上するとは思えない。<br/>駅の所在地は藤沢市で、鎌倉市内ではない新駅に市の財政から支出することは市民感情として納得できない。<br/>新駅をつくる費用があるなら市民の暮らしのために使ってほしい。（コロナが非常に広がっている中で保健所の拡充など）</p> <p>③ 深沢地区の再開発は必要だと思う。どのような再開発にするかは、市民の総意で一から計画の立て直しを求める。<br/>これからは災害に強いまちづくりが求められると思い、ぜひ一から計画の見直しを求めたい。<br/>市役所の移転も市民合意が得られているとは思えない。多額の市の財政を投資する大型開発は、市民の声を聞き、市民のまちづくりの観点から計画してほしい。</p> | <p>① 深沢の新しいまちづくりは、第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画や鎌倉市都市マスタープラン、深沢地域の新しいまちづくり基本計画など、行政計画に基づいて進めています。<br/>3・4・5号深沢村岡線は、駅利用者や深沢地区土地区画整理事業により新たに発生する交通需要を見据え、整備するものであるとともに、新たなまちの玄関口としてまちのポテンシャルを高めるために必要な道路と考えています。<br/>なお、腰越大船線については、神奈川県決定事項であり、神奈川県から回答いたします。</p> <p>② 新駅設置により、深沢の新しいまちづくりのポテンシャルが高まり、新駅と深沢地区のまちづくりによる税収効果として、まちが建ち上がった時点で年額約16億円の増収を見込んでいます。これらを活用することにより、福祉、子育て、教育、自然災害対策、インフラマネジメントなど、鎌倉市全域に広くその効果を反映することもできることから、東海道本線新駅設置は、深沢の新しいまちづくりに大きく資するものと考えています。</p> <p>③ 現在の土地利用計画（案）は、多くの市民が参加して作成した修正土地利用計画（案）を、学識経験者がまちづくりのコンセプト及び実現化施策を再点検し、パブリックコメントを実施して作成したものであり、その間、ホームページやまちづくりニュースを発行し、進捗状況を公表しながら進めています。<br/>深沢の新しいまちづくりは、防災拠点となるまち・災害に強いまちを目指し、グラウンドと広場が隣接する本庁舎及び消防本部等と連携し、地域の防災性の向上を図るため、災害時の防災拠点の役割の一部を担うことを想定しています。<br/>また、本庁舎の整備事業については、別途、本庁舎整備事業のなかで、丁寧な説明に努めます。</p> |

※ C氏からは、「村岡・深沢地区土地区画整理事業」及び「3・4・5号深沢村岡線」、D氏からは、「村岡・深沢地区土地区画整理事業」及び「深沢地区地区計画」、F氏からは、「深沢地区地区計画」及び「3・4・5号深沢村岡線」、について公述をいただいておりますが、各案件とも相互に関連する公述内容であるため、各案件に同じ公述要旨及び市の考え方を記載しています。

公述人 D氏

| 公述意見の要旨  | 市の考え方   |
|--|---|
| <p>① 村岡・深沢地区土地区画整理事業、深沢地区地区計画に反対である。</p> <p>第1に深沢地域だけで成立する計画を求める。鎌倉市としては、村岡新駅がなくても計画が成立する。新駅を成立させるためという以外、離れた2つの区域を無理やりくっつけて計画する根拠はない。</p> <p>藤沢市につくる新駅になぜ鎌倉市が巨額の費用を負担しなければならないのか。駅は民間の営業施設であり、市費を投入すべき公共の福祉はあるのか疑問を持っている。</p> <p>② 第2にコロナ後の財政やまちづくりの在り方を議論したうえで計画を練り直すことを求める。市民生活防衛のための財政出動、中長期的な視野に立って検討することが大切である。</p> <p>今回の計画で莫大な借金を抱えることになると危惧している。市の事業計画は皮算用であり、結果は見えている。妄想に近いとすら言える。</p> <p>再開発区画整理の厳しい現実について、2つの実例を紹介する。（横浜みなとみらい地区・藤沢シークロスの保留地処分について紹介）</p> <p>事業計画に新駅設置の費用を見込んでいることが事業の財政的なリスクの根源になっている。新駅設置とシンボル橋が追加されて膨れ上がった事業費が、保留地処分金や開発した土地が売れなかったことなどのリスクを大きくしている。</p> <p>計画を白紙に戻し、改めて市民討議が必要ではないか。</p> <p>③ 第3に深沢のまちづくりの在り方の根本転換を求める。鎌倉市の所有地は山が多く、平地が少ないので行政課題を解決するための土地の確保が難しく、深沢地区の開発は市全体の課題解決の用地として活用することが重要。</p> <p>深沢地域の一部を拠点化し都市化するのは唐突であり、まちづくりの破壊行為ではないか。隣接市街地は閑静な住宅地、市営住宅、緑地も点在する落ち着いた地域で、深沢地区もその延長としてのまちづくりがふさわしいと考える。</p> <p>既存商店街の繁栄に寄与することはあっても衰退の要因になってはならない。災害対応を優先するまちづくりを求める。</p> | <p>① 深沢の新しいまちづくりは、第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画や鎌倉市都市マスタープラン、深沢地域の新しいまちづくり基本計画など、行政計画に基づいて進めています。</p> <p>新駅を含めた深沢・村岡両地区一体の土地区画整理事業は、本市の新たな拠点を形成し、税収増加や公共施設の再編など、全市的な課題解決と持続可能な都市経営を実現するための事業です。</p> <p>新駅設置により、深沢の新しいまちづくりのポテンシャルが高まり、新駅と深沢地区のまちづくりによる税収効果として、まちが建ち上がった時点で年額約16億円の増収を見込んでいます。これらを活用することにより、福祉、子育て、教育、自然災害対策、インフラマネジメントなど、鎌倉市全域に広くその効果を反映することもできることから、東海道本線新駅設置は、深沢の新しいまちづくりに大きく資するものと考えています。</p> <p>② 現在の土地利用計画（案）は、多くの市民が参加して作成した修正土地利用計画（案）を、学識経験者がまちづくりのコンセプト及び実現化施策を再点検し、パブリックコメントを実施して作成したものであり、その間、ホームページやまちづくりニュースを発行し、進捗状況を公表しながら進めています。</p> <p>新駅を含めた深沢・村岡両地区一体の土地区画整理事業は、本市の新たな拠点を形成し、税収増加や公共施設の再編など、全市的な課題解決と持続可能な都市経営を実現するための事業です。</p> <p>保留地処分金を確実に得られるよう、まちづくりガイドライン等によるコンセプトの確立、まちのブランディングに努めるとともに、神奈川県など関係機関と連携して企業誘致に向けた取組にも着手しています。</p> <p>③ 深沢地区は、古都中心部から連なる鎌倉市の豊かな緑とつながっており、それらとの連続性を考慮したまちづくりを目指し、シンボル道路やそれに連なる各街区内等を緑化することで、地区周辺の緑地につながる緑のネットワークの構築を図ります。また、周辺地域とのネットワーク動線に配慮し、誰もが心地よく過ごせる、歩きやすい、歩きたくなる環境づくりを目指します。</p> <p>深沢の新しいまちづくりは、防災拠点となるまち・災害に強いまちを目指し、グラウンドと広場が隣接する本庁舎及び消防本部等と連携し、地域の防災性の向上を図るため、災害時の防災拠点の役割の一部を担うことを想定しています。</p> |

※ C氏からは、「村岡・深沢地区土地区画整理事業」及び「3・4・5号深沢村岡線」、D氏からは、「村岡・深沢地区土地区画整理事業」及び「深沢地区地区計画」、F氏からは、「深沢地区地区計画」及び「3・4・5号深沢村岡線」、について公述をいただいておりますが、各案件とも相互に関連する公述内容であるため、各案件に同じ公述要旨及び市の考え方を記載しています。